

地域医療連携についての取り組み 状況について

～基幹病院との薬薬連携を中心に～

不二薬局

一瀬信介

(東京都文京区)

本日の内容

- 文京区における薬薬連携とは？
* 薬薬連携協議会の歩み・目的
- 第12回 薬薬連携協議会の報告
後発医薬品使用推進について
- これからの連携目標

薬薬連携の歩み・目的

1998年、文京区、足立区、北区、荒川区、台東区の薬局、病院、診療所に勤務する薬剤師の学識並びに職能の向上を図るとともに、薬学的管理を通し地域住民のQOL向上に寄与することを目的として上記5区薬剤師会とその区の基幹病院を中心に「薬薬連携協議委員会」を発足した。

1998年 薬剤師会：文京区・足立区・北区・荒川区・台東区
病 院：日本医科大学付属病院・都立駒込病院

2003年 病 院：東京女子医大東医療センター・永寿総合病院参加

2009年 病 院：東京大学付属病院参加

委員構成：病院側13名（5病院） 薬剤師会側17名（5地区）
計30名が中心になり、委員会や協議会の取りまとめを行っている

3

五つの区の人口と薬局数

	昼間人口	夜間人口	薬局数
・ 文京区	336.229	189.564	104
・ 台東区	303.522	163.528	121
・ 荒川区	184.021	191.163	93
・ 足立区	539.309	622.500	171
・ 北区	307.317	330.345	135

* 人口数：平成17年東京都公表

* 薬局数：東京都薬剤師会会員薬局（平成25年）

委員会

委員会を2カ月に1回開催

(各薬剤師会・病院の委員が集まり情報交換)

- ・クラブモックスの調剤方法
- ・後発医薬品の変更によるフードバック方法
- ・インフルエンザ対策
- ・法改定に伴う調剤報酬改定に対する施策の検討
- ・安全管理における情報提供のあり方
- ・麻薬処方への取り扱い
- ・実務実習受け入れに関する検討
- ・服薬指導を行う上での情報共有と臨床情報の提供
- ・各薬剤師会や病院からの勉強会や報告事項

5

テーマ

第1回	薬業連携について(1)
第2回	薬業連携と患者情報・医療機関からの情報
第3回	癌患者における疼痛緩和について
第4回	糖尿病
第5回	気管支喘息
第6回	お薬手帳
第7回	後発医薬品(1)
第8回	薬学生実習受け入れについて
第9回	後発医薬品について(2)
第10回	薬業連携について(2)
第11回	クレーム対策をしていますか？
第12回	ジェネリック薬品の更なる使用推進のために
第13回	検証!! 実務実習元年
第14回	お薬手帳

6

第15回薬薬連携協議会



日時 平成29年3月9日(土) 午後1時～午後7時
 場所 日本医科大学 橋本会館2F 橋本ホール
 文京区千駄木1-20-7
 会費 無料(お昼の込みは不要です。)
 ツアー 「開業を飛び出して...やってみよう、連携！」

プログラム

	司会 都立駒込病院	岡本 麻里子
16:00~18:05	開会の辞	日本医科大学
16:05~17:40	第一部 会員発表	東北 水戸総合病院 北関東薬師会
1	医療従事者におけるお薬手帳の活用と今後の取り組みについて	都立駒込病院 藍崎 千紗
2	肥前県教育入院における薬療等の取り組み(臨床的連携手帳の活用)	水戸総合病院 松本 幸子
3	循環器疾患の患者におけるお薬手帳の有用性について	日本医科大学 船川 泰典
4	平日夜間小児加療救急応援および休日応急診療への要請の事例	足立区薬剤師会 寺山 啓一郎
5	薬薬連携スキルアップセミナー(新開業技術研究会)による地域連携の実践	丸内病院 本多 寿哉
6	文京区医師会学術大会に参加して	文京区薬剤師会 森 美穂子
7	地域における新開業の役割 ～多職種連携による「めりつけ薬局」を完成して～	滋賀薬剤師会 高橋 雅子
8	『ついで、地域へ出て行く！』～実習イベント参加報告より～	荒川区薬剤師会 岸上 茂一
9	お薬相談会を通して、要請所と介護職・福祉職との連携	下谷薬師会 浅野 佐奈枝
10	公益スポーツファーマシスト取組に向けて	北関東薬師会 三刀 麻石
11	プレゼンテーション力向上を目指した取り組み	女子医大東成センター 代久 田陽子
17:40~17:50	休憩	
17:50~18:55	第二部 講演	南長 船川区薬剤師会 田中 大介
	「HIVをめぐる最近の話題」—院外処方箋発行による問題も含めて— 都立駒込病院 HIV感染症専門薬剤師 佐野 俊彦先生	
18:55~19:00	閉会の辞	文京区薬剤師会 川又 裕樹

学会・論文発表

- * 第7回薬薬連携協議会より
 - 平成17年日本医療薬学会年会(岡山)
 - 平成17年日本薬剤師会学術大会(広島)
- * 第9回薬薬連携協議会より
 - 平成19年日本地域薬局薬学会(東京)
- * 第11回薬薬連携協議会より
 - 平成20年日本薬剤師会学術大会(滋賀)
 - 平成20年日本医療薬学会年会(長崎)

第

第12回薬業連携協議会

秋の換、先生方におかれましては益々ご健勝のこととお慶び申し上げます。
足立区、北区、荒川区、文京区、台東区、台東区、台東区、台東区に勤務する薬剤師の卒業生及び
薬業の向上を図るとともに、薬学的管理を直し、地域住民のQOLの向上に寄与することを目的とし
て、薬業連携協議会を立ち上げてから12年目を迎えました。
今回は「ジェネリックの更なる使用促進のために」というテーマでシンポジウムを開催いたします。
ご多忙のところは存じますが、多数の先生方のご参加をお願いいたします。

日時 平成22年2月20日(土) 午後4時30分～午後7時
場所 日本医科大学 備後会館 講堂ホール
文京区千駄木1-20-7

会費 無料

プログラム

司会	永寿総合病院	川田 弘樹
16:30～16:35 開会の辞	台東区薬剤師会	坂口 貴孝
16:35～17:50 第一部 会員発表	座長 荒川区薬剤師会	田中 大介
	都立駒込病院	白石 信雄

- ジェネリック使用状況報告
～薬業連携協議会所属5病院と5区薬剤師会会員薬局へのアンケート結果から～
北区薬剤師会 中村 清治
- 後発品採用に関する病院での取り組み 日本医科大学付属病院 中嶋 高広
- 後発医薬品普及の障壁
～Breakthroughするための一歩～ 足立区薬剤師会 鈴木 俊
- アスピリン腸溶錠の比較試験 東京大学医学部附属病院 阿部 敏秀
- ジェネリック医薬品の品質について 日本ジェネリック製薬協会 川原 知巳様

17:50～18:00 休憩

18:00～18:55 第二部 ディスカッション 座長 東京大学医学部附属病院 中島 克佳
文京区薬剤師会 井上 英

18:55～19:00 閉会の辞 東京女子医科大学医療センター 谷古宇 秀

* 本会は日本製薬協会の協賛で運営されています。

会

9

薬業

薬業連携協議会アンケート 『ジェネリック医薬品のさらなる使用促進のために』

(文京区) 薬剤師会

1. 後発医薬品の在庫日数は？(規格が異なれば別々に数える)
() 品目
不動在庫になっている後発医薬品はありますか？
ない・ある → () 品目 (病院のみ回答：注射薬は) 品目

2. あなたの薬局で後発医薬品を採用する基準は？(○印をつけてください(複数回答可))

- a () 患者からの要望
- b () 医師機関からの要望
- c () 薬価 (患者負担の軽減)
- d () 薬価差益
- e () 大手後発医薬品メーカー製品
- f () 後発医薬品メーカーの情報体制 (情報、対応等)
- g () 供給体制 (安定供給)
- h () 小包装の有無
- i () 医薬品の品質情報 (生物学的同等性、溶出試験、添加物等)
- j () 製剤工夫
- k () 付随の使用実績
- l () 適応症
- a () その他 ()

3. 先発医薬品から後発医薬品に変更後、再び先発医薬品に戻った医薬品はありますか？ 理由は以下より番号で選びください。
①副作用、②効果、③処方元の要望、④服用感・使用感、⑤容器等の使用感、
⑥なんとなく、⑦その他

先発医薬品名	後発医薬品名	先発医薬品名	理由
---	---	---	
---	---	---	
---	---	---	
---	---	---	
---	---	---	

4. 後発医薬品使用促進に対してご意見、ご要望をお聞かせください。ご自由にお書きください。

ト

(平成21年8月)

10

第12回薬-薬連携協議会

ジェネリック使用状況報告

5病院と5区薬剤師会会員薬局へのアンケート結果
～ジェネリックの更なる使用促進のために～



第11回薬-薬連携協議会

11

❖目的

「ジェネリックの更なる使用促進のために」をテーマに、ジェネリック医薬品の使用状況を調査し、問題点を整理し、さらに使用を促進する方策を検討する。

❖方法

平成21年8月下旬から9月初旬にかけて5病院、5区薬剤師会会員に対しアンケート調査を実施、結果を集計した。

12

❖ジェネリック医薬品に関する アンケート集計結果

◆ 薬局

- ・ アンケート配布件数(薬局数) 620件
- ・ アンケート回収件数 293件
- ・ 回収率 47.25%

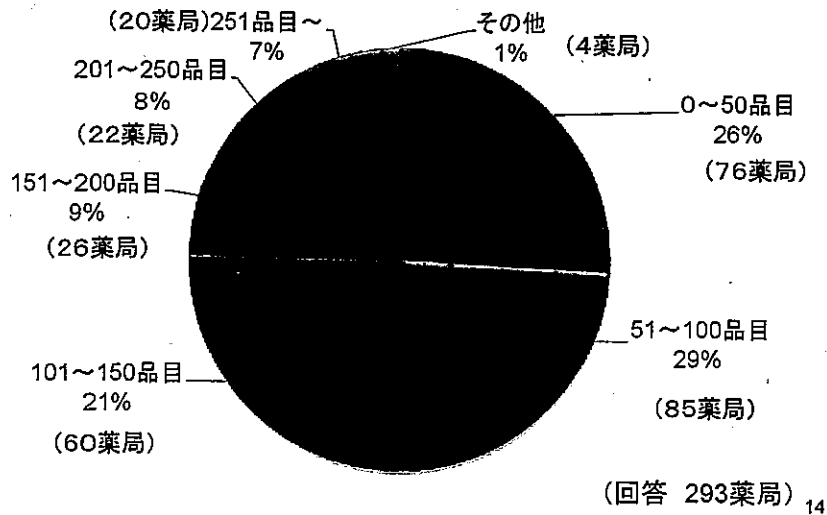
	荒川区	下谷	浅草	北区	文京区	足立区	合計
アンケート 配布数	100	43	62	138	97	180	620
アンケート 回収数	58	28	43	79	24	61	293
回収率	58.0%	65.1%	69.4%	57.2%	24.7%	33.90	47.3%

◆ 病院

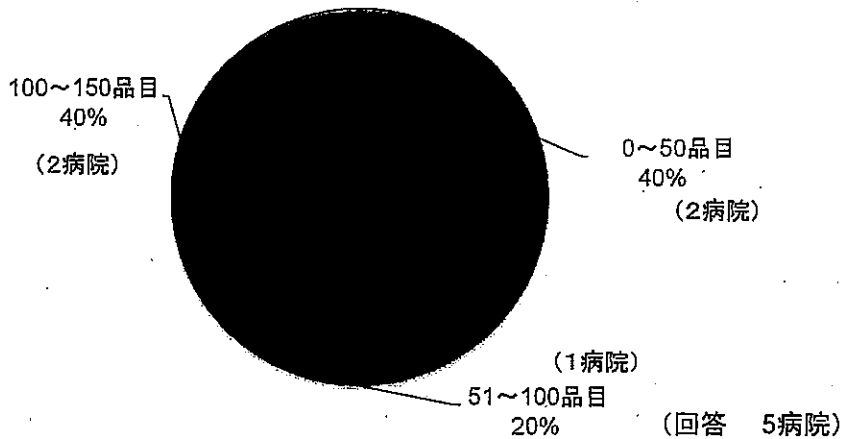
- ・ アンケート 5病院

13

取扱いジェネリック医薬品数 (薬局)

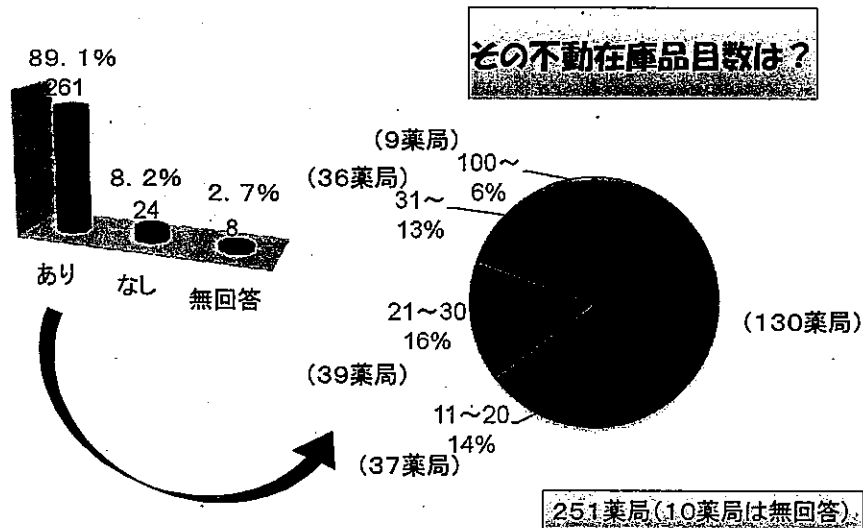


取扱いジェネリック医薬品数(病院)

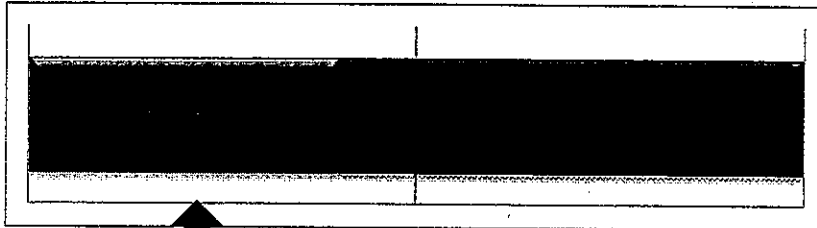


15

ジェネリックの不動在庫はありますか？(薬局)



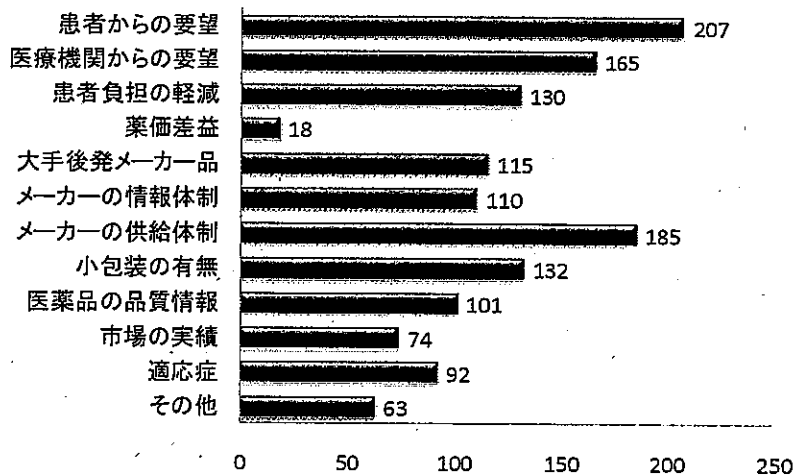
ジェネリックの不動在庫はありますか？(病院)



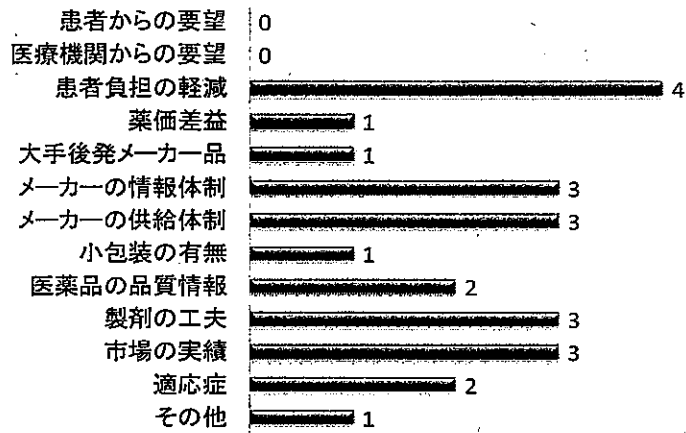
不動在庫品目数は
2病院とも 0~50品目

17

ジェネリック採用基準(薬局)

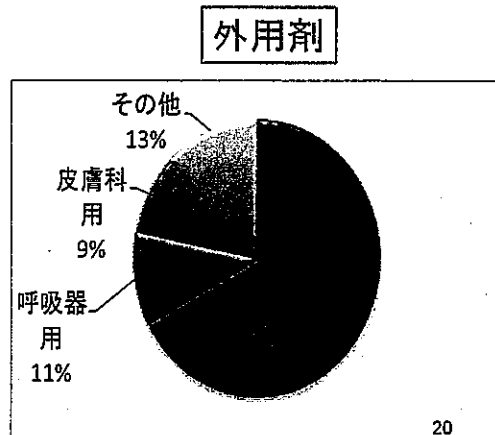
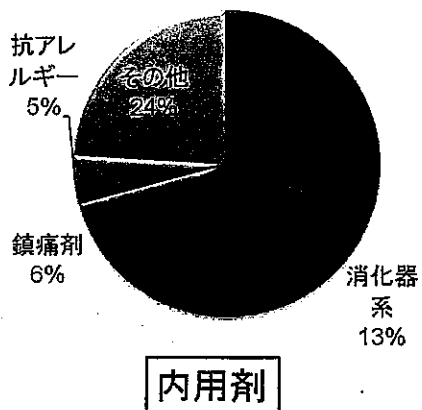


ジェネリック採用基準(病院)



19

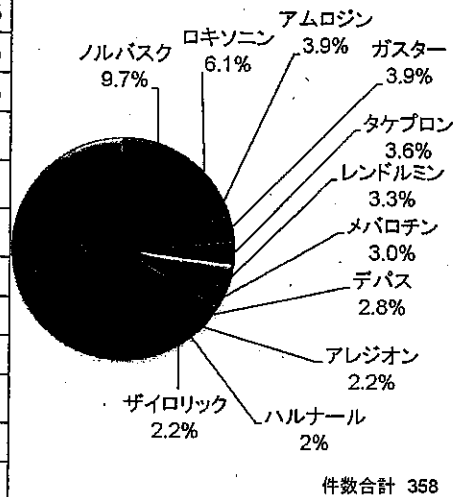
後発品から先発品にもどった 医薬品薬効別分類(薬局)



20

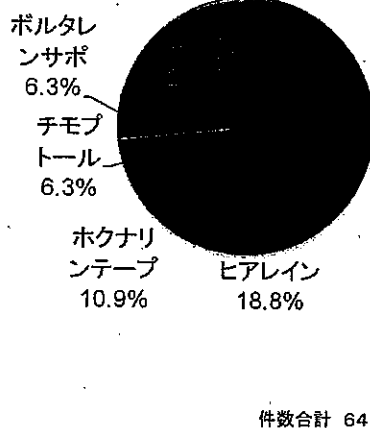
後発品から先発品にもとった 内用医薬品(薬局)

		件数	%
第1位	ノルバスク	35	9.8%
第2位	ロキソニン	22	6.1%
第3位	アムロジン	14	3.9%
第3位	ガスター(D 8件含む)	14	3.9%
第5位	タケブロン(OD 9件含む)	13	3.6%
第6位	レンドルミン(D 3件含む)	12	3.4%
第7位	メパロチン	11	3.1%
第8位	デパス	10	2.8%
第9位	アレジオン	8	2.2%
第10位	ハルナール(D 4件含む)	6	1.7%
第10位	ザイロリック	6	1.7%
	その他	207	57.8%

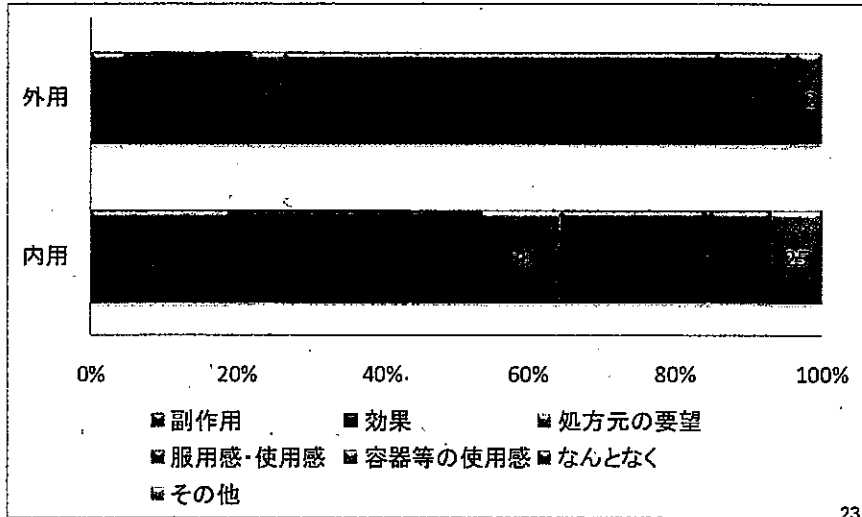


後発品から先発品にもとった 外用医薬品(薬局)

		件数	%
第1位	モーラステープ(L 3件含む)	24	37.5%
第2位	ヒアレイン	12	18.8%
第3位	ホクナリンテープ(3種)	7	10.9%
第4位	チモプトル点眼	4	6.3%
第4位	ボルタレンサボ	4	6.3%
	その他	13	20.3%



後発品から先発品に戻った理由(薬局)



後発品から先発品にもどった医薬品(病院)

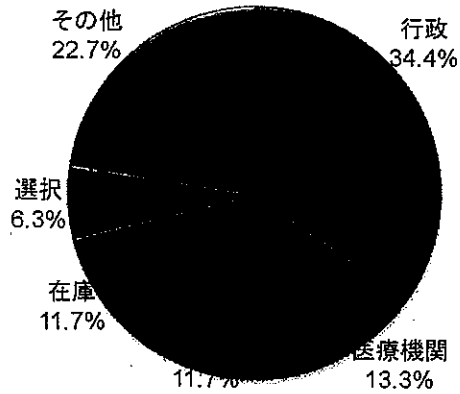
- ① 強カネオミノファーゲン静注
- ② オムニパーク350(造影剤)
- ③ ゾビラックス注
- ④ アーチスト錠10mg

①～③は医師側の要望により、
④は効果結果により先発医薬品にもどす。

(回答 2病院)

自由意見

	件数	割合	順位
1 行政に対する意見	44	34.4%	1位
2 医療機関に対する意見	17	13.3%	2位
3 メーカーに対する意見	15	11.7%	3位
4 在庫に対する意見	15	11.7%	3位
5 選択に対する意見	8	6.3%	4位
6 その他	29	22.7%	5位
合計	128	100.0%	



25

行政に対する意見

- 負担の無い患者・負担割合の低い患者へのガイドラインをつくってほしい。
- 先発品とジェネリックの適応症を同一にしてほしい。
- 薬価がバラバラで選択に困る。
- ジェネリックの安易な製造中止を禁止すべし。
- ジェネリックということばを国民が知らない。国が国民に対し周知すべきでは？

26

医療機関に対する意見

- 医療機関でジェネリックのメーカーを指定しないで欲しい。
- 処方せんは先発名で変更可が最も使用促進になる。
- 大学病院の処方せんでジェネリック不可が多すぎる。
- 病院により、また診療科ごとに変更可・変更不可があり、混乱をおこす。
- 医師からも、予めジェネリックについて患者に説明があると、患者も受け入れやすい。

27

メーカーに対する意見

- 小包装を充実させてほしい。
- 品質情報をきちんとつたえ、信頼を高めて欲しい。
- 患者用に資料を充実させて欲しい。
- 納品までの時間の短縮を望む。
- 外用剤は先発品と使用感が異なることがあり、結果、先発品にもどすことが多いので、使用感を近づけてほしい。
- 直販メーカーの長期休暇(年末年始・お盆)はやめてほしい。

28

在庫に対する意見

- 在庫量が増え、保管場所に苦慮する。
- 処方変更等で不良在庫になるケースが多い。
- 種々採用されると、在庫が増える。

選択に対する意見

- ジェネリックメーカーの数が多すぎ、選択に迷う。
厚生労働省が制限すべき。
- 一つの先発品に対し、ジェネリックが多品目あり、選択に悩む。

29

その他の意見

- 患者は医師の処方通り(オリジナル)希望するケースが多い。
- ジェネリックをすすめると、いやがる患者が多い。
- 精神神経系や入眠剤は、患者の心理状態に左右され易く、嫌がられることが多く難しい。
- 老人は薬を変えると間違えやすくなる。
- 全ての薬にジェネリックがあるわけではなく、正しい知識の啓発が必要。
- 患者さんに喜ばれている。

30

薬局・薬剤師のためらい

- 在庫の増加。
- ジェネリックを勧める時間がかかる。
- フィードバックの手間の増加(お薬手帳なら楽)
- ジェネリック不可のDrが多い。
- メーカーが多過ぎ悩む。
- ジェネリックを勧めないと悪者扱い(行政からのプレッシャー)。
- 適応症が同じか調べる手間がかかる。

31

これからの連携目標

- (1) 在宅医療
 - ・退院時共同指導の実施と方法の検討
 - ・退院時情報提供書の検討と実施
 - ・地域薬局が参加する病院での無菌調剤室を使用した実習の実施
- (2) 災害時
 - ・それぞれのBCPの作成と共有、および協力体制と連絡方法の構築

これからの連携目標

- (3) 相互の情報と知識の共有とレベルアップ
 - ・病院薬剤師：セルフメデイケーション、OTC
健康保険、ドーピング等
 - ・開局薬剤師：無菌製剤、院内製剤、
院内使用衛生材料等
 - ・それぞれの業務内容
調剤方法、服薬指導、薬歴等
 - ・スキルアップのための研修会の開催
 - ・薬学生実務実習

これからの連携目標

- (4) 後発品への対応
 - ・後発品への変更後の連絡方法
 - ・退院時の院内処方情報
 - ・後発品使用促進のPR(患者・医師)
 - ・変更後の医師への連絡とカルテへの記載
- (5) お薬手帳の活用と普及のPR(患者・医師)

